馬耳東風

かっと目を見開き，口をきつく結び髪の毛を逆立て，凄まじい形相で鋭く正面を見据えている．逞しい筋肉の浮き出た左腕は腰に，右手を高く振りかざし今にも振り下ろしそうだ．武装しながら何と足はサンダル履きで近寄るものを寄せ付けない構えだ．まさに迫力みなぎる神将の姿である．照明が一層の効果を引き出し髻にウサギを乗せているのがよく分かる．専門家は写実的で力強い様式から，鎌倉時代の彫刻界を代表する慶派の作風十分だという．出羽国・慈恩寺の薬師如来に眷属する国重文の十二神将のひとつ卯神だ．仏教文化が花開き，幾多の仏像が支配者や民衆の力で信仰の対象として造られてきた．仏像は人々に心温かく救いを差し伸べ，なにものにも代え難い絶対的な存在として神格化されてきた．如来や菩薩の顔は，彫刻の真髄が表現され人々に安らぎを与える．眷族する像の千手観音の二十八部衆あるいは山門の金剛像の形相といい，力強さは見入るほど頼もしい表情だ．釈迦仏中心から大乗仏教の発展とともに多数の如来や菩薩，明王あるいは天などが造られてきた．

薬師如来は，左手に薬壷を持ち人々の病や苦しみを取り除き，災害を防止する現世利益の如来である．十二誓願の薬師如来が眷属する干支由来とされる奈良の新薬師寺の十二神将は，修学旅行生におなじみであり，最近では仏女にも人気がある．薬師本尊は平安時代初期の一木造りの国宝で切れ長の眼と引き締った口元と肉付きの良い身体の坐像であり，六仏を光背に持つが日光・月光二菩薩の脇侍はいない．円形の須弥壇に本尊をぐるり取り巻くように安置されたひとつひとつの姿を感慨深く拝観し，信仰と芸術の円熟した極致に驚いたものである．奈良時代の塑像は，11 体がわが国最古最大のもので国宝に指定されている．特に注目されているのが国宝の伐折羅大将で干支の戌に当たる．髪を逆立てベンガラが使われていたようで，まさに炎髪の表現がぴったりである．顔の緑青をうかがわせる色調から，かつての物凄い形相が想像される．ガラスのはめ込まれた眼力に吸い込まれそうである．尊像の髪型，眼のつくり，服装から持ち物まで同じものはない．それぞれが実に個性に満ちた姿である．しかも武装が中央アジアの皮革製の鎧は仏教伝来の時代を思わせるものだ．

「さがえ風土記」の著者 宇井 啓さんから古刹慈恩寺のレジメを頂き，表紙の卯神が持つ独特な表情に魅せられ，いつか出会いをと念じていたところ，上野の「みちのくの仏像」展で願いがかなった．東北を代表する数々の仏像を感謝と感動をもって拝観することが出来た．東北三大薬師のひとつ黒石寺の薬師如来は貞観地震以前の作で，あの災害時の苦難の人々を二度も見守り続けたことになる．会場の独特な雰囲気を感じながら，如来や菩薩はもちろん，木の素材が見事に生かされた素朴な円空仏に顔を近づけ，じっと見つめ静かに手を合わせる柔和な目と温和な人柄．みちのくに生きる人々の穏やかな心に触れた思いだ．（柏）